第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

アマミイシカワガエル

Odorrana splendida Kuramoto, Satou, Oumi, Kurabayashi et Sumida, 2011

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026．アマミイシカワガエル．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 486-490．

Citation: Toda, M., 2026. *Odorrana splendida* Kuramoto, Satou, Oumi, Kurabayashi et Sumida, 2011. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 486-490.

無尾目 Anura　アカガエル科 Ranidae　　日本固有

アマミイシカワガエル

***Odorrana splendida* Kuramoto, Satou, Oumi, Kurabayashi et Sumida, 2011**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠB類（EN）　B2ab

基準 A:　―	基準 B:　EN	基準 C:　―	基準 D:　―	基準 E:　―

B2．生息地面積が 500 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。
【地点数】5 地点以下
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
森林環境の改変や道路整備などにより生息地は減少している。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

奄美大島の固有種で、山地渓流の源流域・上流域に生息する。幼生の生育には健全な森林内を流れる清冽な流水環境が必要である。林道の敷設・整備に伴う森林の伐採や、流域の開発は、本種の生息地の縮小および分断を引き起こしている。

基礎情報

【形態】

成体の頭胴長はオスで 74～124 mm、メスで 95～137 mm。奄美大島南西部の個体群は雌雄ともに他地域のものより明らかに大きい。南西部の個体群を除けば頭胴長は普通、オスで 100 mm、メスで 110 mm 程度。体色パターンは近縁のオキナワイシカワガエルに似るが、背面の暗色斑がより小さいこと、暗色斑の中心部が明らかに淡色なこと、胴側面がより黄色味を帯びること、腹面の斑紋が不明瞭なことなどで区別できる。体型もオキナワイシカワガエルに似ており、吸盤、後肢のみずかきは比較的よく発達する。

【生活史】

繁殖期は 1 月下旬～5 月で、最盛期は 2～3 月。卵は黄白色、直径は 2.9～3.5 mm ほどで、1 回に 1,000 個前後の卵を源流近くの常に水のある岩穴や土手の穴などに産む。幼生は孵化した岩穴から渓流に出て、それほど深くない場所を中心に生息する。幼生の下流方向への移動（流下）が確認されており、標識を付けた幼生がふ化地点から 90 m 下流に移動した例が知られる。幼生は 1 回または 2 回の越冬後、5～9 月にかけて変態する。オスは各産卵場所を占有し、繁殖期の間に複数回、産卵メスを獲得すると思われるが詳細は不明。成体の年間の行動範囲は水平の直線距離にして平均 200 m 程度、広い個体でも 500 m 程度であるという報告がある。カマドウマ、ヤスデ、ナメクジ、ミミズなどを捕食する。

【生息環境】

生息地は山地に限定される。常緑広葉樹林に覆われ、夏季にもあまり高温にならず、かつきれいな水が常時流れる渓流の存在が生息の必要条件と考えられる。繁殖は水量が少なく岩穴などが多い源流部でなされる。非繁殖期には渓流からやや離れるとされるが、渓流沿いにいることもあり、その場合は苔むした巨岩や岩盤上に静止している姿を見る。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，河川源流域，河川上流域
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(4) 河川・湿地地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

奄美大島の固有種。河川の源流域に生息している。笠利半島では確かな記録がない。かつて外来種のマングースの生息密度が高かった名瀬の周辺では確認数が顕著に少なかったという報告がある。

現在の生息状況

【分布域の現況】

生息地面積は広く見積もっても 400 km²を超えることはなく、実際の分布面積が 150 km² 未満とする推定もある。自然林を貫く道路の敷設、伐採により常緑広葉樹に覆われた山林が縮小していることから、生息地は狭まっていると考えられる。北部の笠利町には生息しないという情報があるが、確認が必要。

【生息地の現況】

かつて広い範囲で原生林が伐採され、また林道の敷設により多くの河川で環境が悪化した。近年でも開発は続いており、生息環境は悪化していると考えられる。

【個体数の現況】

具体的な数値は不明だが、生息域・繁殖場所の縮小を踏まえると、全体の個体数は本来の生息数から減少していると考えられる。マングースが定着していた島の中部では本種の個体密度が低下し、発見が難しくなっていた地域もあるが、防除事業によるマングース個体群の縮小に伴って、当該地域におけるカエル類の個体数は回復しつつある。

存続を脅かす要因

林道の敷設・整備に伴う森林伐採と河川環境の悪化が本種の存続を脅かす要因となっている。またマングースの捕食による明らかな影響もあったが、2024 年に奄美大島のマングースの根絶宣言がだされ、その悪影響は取り除かれている。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，河川開発，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，交通事故，捕食（外来種による）
	（現在）	森林伐採，河川開発，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，交通事故

特記事項

DNA 分析に基づき、近縁なオキナワイシカワガエルと本種との分岐は 200 万年よりも前に遡ると推定されている。また、両種を併せた系統は遺存性が高い。最近の集団遺伝学的研究によって、本種内の集団構造はオキナワイシカワガエルと比べて複雑であり、遺伝的に異なるいくつかの地域個体群を含むことが示されている。本種を含むニオイガエル属は中琉球・南琉球の地域から 6 種が知られ、島嶼における種分化・多様化の過程を理解する上で学術的に高い価値を持つ。鹿児島県の天然記念物に指定されている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	アマミイシカワガエル	*Odorrana splendida*	EN
第４次 2019：	アマミイシカワガエル	*Odorrana splendida*	EN
第４次 2018：	アマミイシカワガエル	*Odorrana splendida*	EN
第４次 2017：	アマミイシカワガエル	*Odorrana splendida*	EN
第４次 2015：	アマミイシカワガエル	*Odorrana splendida*	EN
第４次：	アマミイシカワガエル	*Odorrana splendida*	EN
第３次：	—	—	—
第２次：	—	—	—
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- Igawa T., S. Oumi, S. Katsuren, and M. Sumida. Population structure and landscape genetics of two endangered frog species of genus *Odorrana*: different scenarios on two islands. Heredity, 110: 46-56.
- Iwai, N., K. Yasumiba, and M. Akasaka. 2018. Calling-site preferences of three co-occurring endangered frog species on Amami-Oshima Island. Herpetologica, 74(3):1 99-206.
- 岩井紀子・亘悠哉，2006．奄美大島におけるイシカワガエル・オットンガエルの生息状況．爬虫両棲類学会報，2006: 109‐114．
- Kuramoto, M., N. Satou, S. Oumi, A. Kurabyashi, and M. Sumida, 2011. Inter- and intra-island divergence in *Odorrana ishikawae* (Anura, Ranidae) of the Ryukyu Archipelago of Japan, with description of a new species. Zootaxa, 2767: 25–40.
- 松井正文，2021．アマミイシカワガエル．日本爬虫両棲類学会（編），新日本両生爬虫類図鑑，pp. 58．サンライズ出版，彦根．
- 永井弓子・岩井紀子・山室一樹・山田一生・大海昌平・亘悠哉，2011．奄美大島におけるイシカワガエルの生活史を通した行動圏と利用環境の解明．プロ・ナトゥーラ・ファンド第 20 期助成成果報告書，pp. 59‐80．自然保護助成金，東京．
- 大海昌平，2006．奄美大島におけるイシカワガエルの繁殖生態：繁殖期における雌雄の動きと飼育下の産卵行動．爬虫両棲類学会報，2006: 104‐108．
- 大海昌平・岩井紀子・小野桂壽，2011．野外におけるイシカワガエルオタマジャクシの成長・発育．爬虫両棲類学会報，2011: 8‐13．
- 大海昌平・岩井紀子・亘悠哉，2012．アマミイシカワガエル地域個体群間の体サイズ比較．爬虫両棲類学会報，2012: 101‐106．
- 戸田光彦・太田英利，2014．アマミイシカワガエル．環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編），レッドデータブック 2014 日本の説滅の恐れのある野生生物 3 爬虫類・両生類，pp. 108‐109．ぎょうせい，東京．
- 亘悠哉．2019．外来種対策のロードマップとチェックリスト：奄美大島のマングース対策からのフィードバック．日本鳥学雑誌，68(2): 263‐272．

- Watari Y., S. Takatsuki, T. Miyashita. 2008. Effects of exotic mongoose (*Herpestes javanicus*) on the native fauna of Amami-Oshima Island, southern Japan, estimated by distribution patterns along the historical gradient of mongoose invasion. Biol. Invasions, 10: 7–17.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Odorrana splendida has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Odorrana splendida* is listed as EN under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 500 km², and estimate indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at five or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest, River headwater, Upper river basin
Threat types:	Logging and wood harvesting, River development, Transportation infrastructure construction, Dam/River structures construction, Vehicle collision
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora.





執筆者:	戸田守（琉球大学）
Author:	Mamoru Toda

公表年月：2026 年 3 月